

私は今もこの貯木地区に住む住民の一人ですが、この取材に関わって、案外この貯木のまちについて知らなかったということを思い知らされました。

貯木が出来て四半世紀、今では3代目にあたる30代の若者達がこれからの貯木の担い手です。彼らは高度成長時代や、バブル期の貯木は知りません。しかし、しっかり先を見据え自分の家業に誇りを持つ若者ばかり。彼らの活動に少しでもこの「ちょぼくブック」が役立つ事になれば幸いです。

一世紀経った吉野貯木も明るいことと信じています。(磯崎 典央)

ちょぼくっ子だった私は、丸太に登ったり皮剥き機のベルトコンベアを滑らない滑り台にして遊んだり、よく悪さをしていました。ごめんなさい。そんな私が貯木の本を作るプロジェクトに参加することになるなんてまァ！思ってもみないことでした。

取材を通して、一大プロジェクトをやったのけた先人たちも、今の貯木で働く人々も、皆それぞれの思いがあってカッコいいし、愛おしいまちだと思いました。生き生きと働く吉野の皆さんの姿に、これからの貯木が楽しみになりました。

制作に関わってくださった方々、本を手にとってくださった皆様、ありがとうございます！(乾 智美)

ちょぼくブック

あ と が き

今年の夏の初めに「吉野貯木」という場所のことを初めて知りました。製材所の本を作りたいという話を聞いて、どういう伝え方ができるだろう、しかも60ページも？と怯みました。入稿直前のいまの感想を書けば、「聞かせてもらったお話は、この冊子の100倍以上ある」です。吉野貯木はすてきな人だらけでした。

吉野町の食べものはおいしいです。まちのどの食堂も、おやつも、クルマで廻ってくる移動販売屋さんも。たくさん食べました。ごちそうさまでした。心残りは、辻木材商店さんの薪ストーブピザを食べ損ねたことです。(砂川 美保子)

ちょブック製作委員会が活動を始めたのが6月頃。夏至、大暑、立秋、冬至と様々な節季を経て、もうすぐに立春を迎えます。その間、写真係の私は、「吉野貯木」の中をカメラを持ってうろうろと歩き回っていました。

雪の朝、雲間から射す一筋の光、真夏の日のどこまでも真っ青な空。夕暮れの人の影。昭和生まれの私にはどこか懐かしくて、少し切ない光景が広がる。この本をご覧になった方は是非「吉野貯木」を訪ねてください。吉野山の麓の不思議な空間です。(山本 茂伸)

いま、吉野貯木から

吉野貯木を川向かいから見るのが好きです。

たくさんの働く工場群、煙突から出る白い蒸気。斜めからの朝日に照らされて、貯木がきらきらと光っています。晴天の青に包まれている貯木も、冬の透き通った空気の中、雪をまとって貯木も、なんだかとても美しく見える時があって、心が動きます。「今日も貯木は働いているんだな。」貯木の背景に見える山々、その山の木と暮らしてきた貯木の人たち。そうここは木と働く場所。力強くて、男っぽくて、とっておきの世界がある。だからこそ特別で、少し近寄りたがたい場所だったのかもしれない。

昭和の初め頃の貯木場建設。この事業はとても大きなプロジェクトだったそうです。見せてもらった当時のモノクロの写真には、その規模の大きさと、意気込みのようなものが写っていました。吉野林業の長い歴史の中の1ページに、吉野材の新しい活用方法を見出す挑戦が必要だったことがわかります。長い歴史を持つ林業地だからこそ時代に合わせて変えていく、ターニングポイントのようなものがたくさんあったのではないかな、と。

今回、吉野町に住み始めて2年になるかならないかの私が、吉野貯木を紹介する本の編集長をさせていただくことになりました。知らないがゆえの「新しい目」と知らないがゆえの「つたなさ」が本の中に滲み出てしまっているのでは、と思います。この取材の中で聞かせていただいた、貯木で働く方々の木への思い。それは自分たちが作りだす木の製品に対してだけでなく、木が育つ「山」への思いでした。この本を読んで「はっ」とされた方には是非、何度も吉野貯木に足を運んでみていただけたらと思います。吉野貯木はただ木がある場所ではありません。知れば知るほど奥深く、味わい深い場所です。その際、お手持ちのお財布をパカッと開いて、吉野の木をおうちに連れて帰ってくださったら、貯木の職人さんたちはにっこり笑ってくれるはず、です。

ちょぼくブック編集長 野口あすか

編集・制作

ちょブック製作委員会
吉野スタイル
<http://yoshinostyle.jp/>

編集長 野口あすか
コーディネーター 磯崎典央
写真 山本茂伸
挿絵 乾智美
編集 砂川美保子
プロデューサー 山田芳雄（吉野町役場）

協力

吉野貯木の皆さん
Re: 吉野と暮らす会
<http://www.facebook.com/yoshinotokurasu>

special thanks

吉野木材協同組合連合会
吉野製材工業協同組合
奈良県立図書館情報館

印刷・製本

岡本印刷所
〒639-3126
奈良県吉野郡大淀町大字新野 342
TEL 0746 (32) 2166

発行

一般社団法人 吉野ビジターズビューロー
〒639-3111
奈良県吉野郡吉野町大字上市 2060-1
TEL 0746 (34) 2522
FAX 0746 (39) 9238
<http://yoshino-kankou.jp/>

*乱丁・落丁はお取り換えいたします。
*本誌内容の無断転載はご遠慮ください。
*本誌記載のデータは 2014 年 3 月現在のものです。

ちょぼくブックの配布場所

〔奈良県〕
吉野町：吉野町役場・吉野スタイル・ねじまき堂・
吉野ビジターズビューロー 奈良市：奈良県立図書館
情報館・旅とくらしの玉手箱フルコト 大和郡山市：
とほん 葛城市：恵古箱
〔奈良県外〕
大阪市西区：hitofushi

ご希望の方にお送りします

送料のご負担をお願いしています。詳しくは
Re: 吉野と暮らす会（吉野林材振興協議会内）
TEL 0746 (32) 8731
E-MAIL yoshinotokurasu@yoshinostyle.jp

